

# Okinoshimaだより



## 第183回 セーリングフェスタ 12月5日(日)



天候 晴れ 風 北2~4m/s 距離2.6nm  
 12月5日(日)セーリングフェスタを開催致しました。  
 当初の予定では、忘年会(餅つき)を中止したため、長めのコースを選んでおりましたが、風があまり吹かない予報だったので、いつものコースを選定致しました。  
 今回は14艇のエントリーを頂きました。午前10時レーススタート。「ZERO」と「フィリエビパーチェ」がよいスタートを切りました。その後、スピンやジェネカーを揚げる艇も多々いました。  
 そして第一マーク回航時には、混戦状態となり権利主張が飛び交っていました。  
 この日は場所によって風の強弱が結構あったため、コース取りはかなり重要に思えました。  
 結果「ZERO」が圧倒的大差でファーストホームを勝ち取り、それから暫くして各艇続々とゴールしレースを終了致しました。  
 今年の行事も無事終える事が出来ました。  
 2022年もレースを予定しておりますので、沢山のエントリーをお待ちしております。



艇名	艇種	フィニッシュ	着順	順位
ZERO	IMX40	10:36:35	1	1
Opus	J29	10:47:11	3	2
SILVER CROW	Ross10.6	10:45:16	2	3
はちきん	N300	10:52:42	7	4
あかね	DEHLER36	10:51:01	6	5
HACKBERRY	DUFOUR45	10:48:29	4	6
Peppermint	YAMAHA26CEX	10:56:23	9	7
フィリエビパーチェ	NAKAYOSHI295	10:55:35	8	8
AZTEC	YAMAHA25ML/OB	10:57:19	10	9
メルルーサ	J105	10:49:37	5	10
フローラ	YAMAHA30C II	10:58:21	11	11
アロハ7	BARRACUDA45	11:02:02	12	12
PLEIADES III	YAMAHA30S II	11:08:03	13	13
あけぼの	OCEANIS321	DNF		



## 年末年始休業のお知らせ

沖野島マリーナの年末年始の休業を下記の通りとさせていただきます。  
12月29日(水)～1月3日(月)

船の上下架・修理などのメンテナンス業務につきましては、  
12月27日(月)～1月5日(水)の間中止

入口のゲートは休業期間中、閉門と施錠を致しますが、会員およびバース使用登録者の方は通常通り出入りしていただけます。

ただし、入退場の都度、必ず閉門と施錠をお願い致します。ゲートを解放したままその場を離れないで、必ず閉門と施錠を行なって下さい。また、後からゲストが来るなどの理由で解放したままには絶対にしないで、必ず開閉に立ち会って下さい。マリーナ内の保安上、各自責任を持って開閉を行なってくださいますようお願い致します。

また、バーベキューデッキでの火気のご使用後の後始末をお願い致します。

何卒、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 2022年 行事予定

昨年はマリーナ行事にご参加を頂きありがとうございます御座いました。

今年のマリーナ行事が決まりましたので、スケジュール帳にチェックをお願い致します。

コロナ渦の影響で変更する場合がありますのが、ご了承ください。

2月13日(日)	184回	セーリングフェスタ
3月13日(日)	185回	セーリングフェスタ
5月15日(日)	186回	セーリングフェスタ
7月10日(日)	187回	セーリングフェスタ
9月11日(日)	188回	セーリングフェスタ
10月 9日(日)	189回	セーリングフェスタ(島周リロングレース)
11月 6日(日)	190回	セーリングフェスタ
12月 4日(日)	191回	セーリングフェスタ&忘年会(餅つき)



## 次世代操船システム「HARMO(ハルモ)」

ヤマハ発動機が今年、大阪府堺市で行われた国内初ゼロエミッションマリーナの内覧会にて、次世代操船システム「HARMO(ハルモ)」の走行会を実施しました。このシステムについて紹介します。

堺市のクリエイションマリーナ内に設置されたこのモデル基地は、EV船販売株式会社が2025年の大阪・関西万博に向けた取り組みとして、国内28社の企業・団体の協力を得ながら完成させたもので、マリーナ内すべての電源を自然エネルギーによる発電と蓄電で確保するほか、棧橋に係船した電動小型船舶に非接触ワイヤレス充電するシステムを設置するなど、「ゼロエミッション」を実現したモデル基地としているそうです。

このHARMOは電動モーターを動力とする推進器ユニットと動作を制御するリモートコントロールボックス、操作をより直感的にするジョイスティックなどで構成された次世代操船システムです。電動ということもあり静粛性に優れ、乗船者がさらに快適に過ごすことができるメリットがあります。

今のところ、高速・高馬力のシステムではありませんが、環境意識の高まっている欧州を中心とした市場を想定し、オランダ・アムステルダムやドイツ・デュッセルドルフなどでも参考出展し、注目を集めました。

また、2020年8月から北海道小樽市の小樽運河クルーズで実証運航をすすめるなど、準備が進んでいるようです。

「HARMO」の特徴は、

①モーター駆動はリムドライブ方式を採用し、高効率な電動推進を実現。リムドライブはプロペラとモーターが一体化しており、構造がシンプルで、減速ギアが無く、無接点でプロペラを回転させるため、特に低速において強いスラスト(推進力)が出せるため、直感的な操作感を提供するとともに、振動・騒音が圧倒的に小さく、快適に操船することができます。

②動力部がプロペラ部分のみなので、大舵角のステアリング機構が可能になり、その場での回頭を可能にし、操作性が高い。

③ジョイスティックによるシンプルな操作で簡単にボートを操船することが可能です。

④2機掛けのシステムでは、ジョイスティックを横に倒すだけで、横方向への移動が可能となり、難しい離着岸などをサポートします。

■HARMO参考動画URL <https://youtu.be/J2m8TZC85oA>

既に2022年春に欧州で販売を開始する予定となっており、9.9馬力相当のもので、運河や湖などでの低速航行に向けた仕様となっています。

速度はおおよそ6~7ノット程度でヨットの機走と同程度。

特に近場で魚釣りをされる方には低騒音で魚に与えるストレスも少ないでしょうし、動力源はバッテリーですから、お財布にも優しいということになります。

従来のエンジン型船外機だと動力の音がどうしても聞こえますが、HARMOは風の音と波をかき分ける音しか聞こえませんが、ヨットでセーリングしている時のようにサイレントクルーズがボートでも実現できます。

ボートに関してはまだまだゼロエミッションがスタートしたばかりですが、ヤマハ発動機は電動自動車(EV)用のモーターユニット「 $\alpha$  live(アライヴ)」をすでに開発しています。

このモーターユニットは最高出力350kWクラス(約470馬力)の油圧駆動電動モーターユニット「 $\alpha$  live EE(エレクトリックエンジン)」です。

今のところ自動車用の開発しか行われていない様子ですが、今後はボートにも採用されていく可能性は十分にあります。

さて、ジャパンインターナショナルボートショー2022の開催が発表されていますし、新しい分野の展示品も多いと聞いています。

今年と同様、バーチャルとリアルの両方での開催となります。

**ジャパンインターナショナルボートショー2022**

会期: 2022年3月31日(木)~4月3日(日)

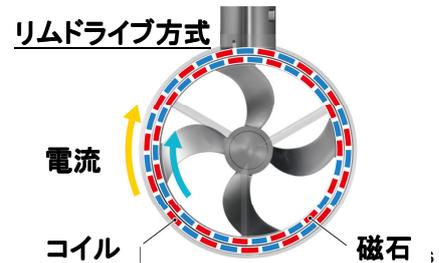
会場: パシフィコ横浜会場、横浜ベイサイドマリーナ特設会場  
(フローティング展示)

料金: 一般(高校生以上)1,500円

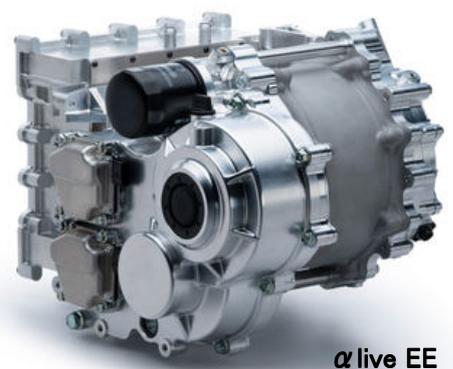
2会場どちらにも入場できる共通券を発行。中学生以下は無料。

詳しくはこちら↓

<https://www.marine-jbia.or.jp/boatshow2022/>



仕様	HARMO
出力(ガソリンエンジン比)	3.7kw (9.9馬力相当)
静止スラスト	102 kgf / 225 lbf
搭載形式	単機掛け または2機掛け
舵角	最大140°
電圧	48vdc
モーターユニット重量	55kg



$\alpha$  live EE

(propman)



## ライフジャケット着用のお願い



既に周知をさせていただいております、平成30年2月から小型船舶の船室外でのライフジャケット着用(桜マークの付いたものに限る)が義務化されました。

屋根と壁に囲まれた船室の中にいる方は適用除外になります。  
※屋根だけを有するスペースのような風雨にさらされる場所は適用除外になりません。

※船室の窓や扉、甲板上のハッチが一時的に開いていてもその内部は適用除外になります。

命綱・安全ベルトを着用している方は適用除外になります。

乗船者にライフジャケットを着用させなかった船長(小型船舶操縦者)には違反点が2点付き、船舶免許の再講習を受けなくてはなりません。ただし、違反点数の付与は、令和4年2月1日まで行われませんが、着用による生存率は2倍以上とも言われています。

船外では必ず着用を心がけるようにしてください。



↑桜マーク

株式会社トス 沖野島マリーナ

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江 836-3

Tel 0823 (57) 2450

Fax 0823 (57) 6845

HP <http://www.okinoshima-marina.jp>

Email [info@okinoshi-marina.jp](mailto:info@okinoshi-marina.jp)

発行責任者：山内貴宏

制作・編集：propman



## 編集後記

最近、ネットの記事で興味深いものを見つけました。

海に残された漁具などが、生き物に深刻な危害を与える「ゴーストフィッシング(幽霊漁業)」という現象で、漁具は海中の岩や激しい潮、魚類の歯、悪天候等による損傷に耐えるため、金属や耐久性の高い種類の合成樹脂で作られているのが殆どで、ご存じのとおり金属や樹脂は自然環境に残留する素材です。そのため海中に放置された漁具が、長期間かかって自然劣化するか壊れるかするまで、ゴーストフィッシングが続くことになってしまいます。

ところが意外な「ごみ」でも起きていることが最近分かってきたようで、

【写真】海中に投棄されたタイヤの内側には、多くの巻き貝の殻がたまっています。これは「ヤドカリが死に、殻だけが残る」という現象です。

私もかつて海中で見た記憶がありま

す。やけに巻貝の殻が多いなあ…と。とある大学の教授がタイヤの内側に巻き貝の殻やヤドカリが多く存在していることに気づいたことに始まり、六つのタイヤを海中に置いて実験したところ、1年間で計1278匹のヤドカリがタイヤの内側に侵入。

さらに、ヤドカリのタイヤの内と外との移動について調べると、外から内側に侵入したヤドカリはいるのに、内側から外に出られたヤドカリは1匹もいないことがわかったそうです。

内側から外に出ようとする、タイヤの内面に沿って移動する必要があり、タイヤ内面は反り返った構造を持つため、ネズミ返しのように働き、一度侵入してしまうとヤドカリが二度と外に出られない環境を作り出したということです。タイヤの内側に閉じ込められたヤドカリの多くは殻が破損していたようで、ヤドカリは成長とともに体の大きさにあった殻に引っ越しを重ねていく

必要があり、「タイヤ内という資源の乏しい環境下で、殻の奪い合い、あるいはエサを求めて共食いのようなことが起きていたのではないか」

ヤドカリは海の掃除屋とも言われ、水や砂を浄化し、生態系を支えているそうなので、小さな漁礁にでもなっているかのようなタイヤが知らない間に深刻な事態を招いているとも言えます。小さな発見ですが、大きな驚きですね。

(propman)

